

NO. 134

泉南走ろう会

先鋒 泉南走ろう会
連絡先 スポニッ社
泉南 0724(83)4653

熊野黒潮三〇キロ

ウルトラマラソンに参加して

自らの可能性と体力の限界に挑戦

会長 遠健三

「人には戦う時がある。時は今だ。熊野黒潮ウルトラマラソン」キザな言葉だね。何処かで聞いたような言葉です。そのとおり(有森選手のバルセロナのときの言葉を振りまいた)。

「なぜこんなことをするのか私にもわからない。ただ、女性にやりたい。これも何処かで聞いた言葉(冒險家植村直己)です。えなな気なことを言

てはいられない。私は言葉のロマンに弱い。「夢伝説」の年酒童童子と云って、才回

大江山登山マラソンに参加。維新のロマンを往還に「一五〇キロ、二五〇キロのマラソン」に参加

「一七〇キロ」伊勢近歩講に参加して「必死」レンジャーのキレ連続歩行に二回も参加。これ

すべては挑戦でした。

挑戦とは自ら求めるものでなくてはならず、誘ってくれた、誘ってくれなかったと思えるの

はお間違いないだ。

で、私はこの大会に参事より参加するべく参加申込書を取寄せた。

当日二面時にスタートして翌日二十四時まで、すなわち二十四時間以内(十月九日、十日)熊野

新宮から田辺まで一三〇キロ走るウルトラマラソンである。実はロマン、風光明媚な海岸線は如何ばかり。これをウルトラマラソンの醍醐味ではなからうか。

しかし、今まで何の用事があり、参加するに及ばず、今回やと参加する時が来た。自らの可能性と体力の限界に挑戦。夏の暑さ、また雨の中、夜間、早朝、いろいろなマラソンに備えドレーミスをかう。

戦国の武将山中鹿之助ではなから、我に七難八苦を与え給え」とトレーニングに耐える。

よりにもよって夜間走りぬく、歩道をあそび懐中電灯を持って走る。人は言う「夜行者」

坂さんのようだ。哲学者だ。「天の邪鬼」素足で走らなくては「正気の沙汰ではない」と。人は人、自分

は走ら、熊野黒潮ロマンを求めて、でも不安でならない。途中のびたらどうなる

のだ。短パンで電車にも乗れない。その時はどうするの。服装は等々不安でならない。

そこで二つの計画をたてる。月に二五〇キロコンスタントに走る。タバコを止める。でも二つとも

駄目であった。一つは五月の小豆島マラソンの折痛めたギックリ腰が完治してない。もう一つは思うように走れない。タバコ、これは駄目ですな。

熊野黒潮はアツク多いと聞く。行程表にもそうなっている。完走できるかしら、不安である。そこで一服また一服というタバコ止めることが出来なかつた。バカだなあと思うでしょう。

さて、十月九日

午前二時四十分

「特急くろしお」十七号に乗り込む。田辺駅を通過。車窓より、今晩から走るコースを目

をやる。歩道は狭い。余程注意せねばならぬと思う。そこでタバコ、いや「戦う時は

今なり」タバコは吸わない、我慢する。

午後六時前、集合場所である新宮熊野速玉神社に着く。東京から来た志島

から来た等、日本各地から参加者が集ってきている。同僚以外とは余り話しを

しない。愈々決戦に備えて何を思っているかを考えている。大半がサボリータ

が付いて来ている。ワゴン車、サイクル車である。それだけに何人かサボリータが

あるのが賑やかで面白いことだ。

私は自信過剰だ。往還がある。一〇〇キロ、二五〇キロ、二土時間の実績がある。なんとかなるさ。満を持して、スタートする

前年とはし過ぎるとうるさなことがない。往還で実証者。あらかじめ定めたペースで走る。コース表に予定タイムを記



るしてある。(何処かで狂うであらうなあ)。懐
中電灯、術の明りを頼りに走る。夜は深々
と更けて来た。否、夜が明けて来たかも、冷たい
正に草木も眠る牛蒡時だ。この時間中は一
番寒い。冷たい。このことは私は何度も夜間
のウオーキングで、昔、和泉山脈一〇キロ縦
走。佐渡島三〇キロウオーキング。はたまた
兼往還守で経験がある。それにしても冷た
比が寒いくと言っている。これは私のように
スピードの早い連中だ。速い人は寒さ何んのも
の、どんどん前へ前へと走る。おそい人は任
がばい。夜が白みで来た。オ一のオタク和イ
ント橋杭岩だ。私は朝食の時間だ。予前
五時五十五分、四時三十分地点だ。少し時間がか
かり過ぎている。でも夜間だ。予定のタイムだ。
その時人が騒ぐ。何故だろう。橋杭岩から
の御来光だ。素晴らしく、今見た
こともない。感動。参加して良かったと思う。
二十分休んだ。おにぎりを食べた。スタート。
オニをクポイント通過。オニをクポイン
ントハニキ口通過。予前十一時三十分、予定
タイムより二十五分おくれた。仕方ない。これは
いいよ、このままで行こう。あにはからんや、どう
も足腰が重い。私の泣きどろろ、腰痛と肩
かしようだ。体の冷えからくると思われぬ。
かクンとペエが落ちる。オ四をクポイン
トに私が午後二時頃、朝食を定め、そこに
パンを預けてある。二時を過ぎてもオ四をク
ポイントが来ない。四十キロよりの主催者が用意す

る飲料水とバナナを口に入れる。これのヒリ過
ぎだ。アップと空をすき(吐気、嘔吐)をする。
何度かガードレールにもたれ、ストレッチを行う。
オ四をクポイント通過。もう、パンも口に入ら
ない。空をすきが焼く。どんどん時間が過ぎる。
一〇三キロオ五をクポイントに制限タイム午
後六時まで到着せねばならない。必を通り越せ
ねば完走もなす。今まで走ってきた九〇キロ
もパーになる。カンバあるのみ。渾身の力を
振り絞る。コース役員の方が大丈夫くと私
を励ましてくれるが足が前に出ない。青梅をウ
ソン三三キロを二時間三十分で走った。三十三キ
ロから走る大会の時は五キロ三十分と少し
で歩いた。このタイムは何だ、これがどうした
もう過去のものとなったが、情けない。泣けて
くる。このままで行けばオ四一時間もかか
ている。沿道の人達、狂走するサボータの
からがバレ、くの声援。私は有難とう、
有難とうと答える。しかし顔は泣き顔だ。言葉
に絶する苦斗、戦う時は分だ、必死に頑張る。
おしうに熱い、うどんが食べた。樽井うど
ん店のお神さんの顔が浮かぶ。「気をうけて
頑張る、この頑張る、N医師の「坂道だから
ときて余り体を前かかみになつてはいけない。
電車でも新宮から田辺まで二時間かかる。
走ってなつ二時間だ。大変だ、気を付けて
素人の人の励ましがかたとなる。完走すれば
樽井へ行って天ぷらうどんを食べるぞ。
そう思えば元気がでる。ヤ、もすいば、素

人は「三〇キロ、車なう一時間とち、だ
」三〇キロなう走っても五時間位かかる
のか。新宮から田辺まで、さかッさ、だ
といふ。
このようにせの中そんなに甘くない。完走
せねば人がテラケラ笑うだろう。年々寄
り様にアハなことをすると。私は大会参加に
あつて、自己PRに「根生」と記した。
正にそのとおりだ。
一〇三キロの関門地点に午後五時二十
八分に到着。午後六時の制限タイムに
間に合った。役員の方から「お日出とらの
声あり、有難とう」
思えばペエが落ちてから三十八キロに六時
間もかかっている。何たる様だ。後約三十
キロ、ゴールを目ざす。
日が暮れた橋の温泉街を通過。往
時の温泉でのドンチン騒ぎを思い出す。
暗がりのガードレールにもたれ、ゲー
空をすきをすする。地べたに足を投げた
しストレッチを行ないたいが、それも出
ない。それをすいば、今度は立つことが出
来ない。役員の方は、
私の不様格好を
見て見ぬ振りを
して、私が歩き出すと、
「大丈夫ですか」と声
をかけてくれる。
そしてゴールに間に合

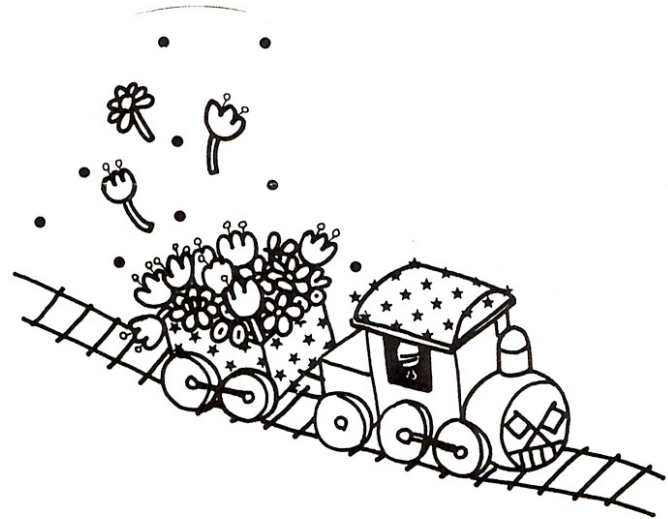


「まさよ」と私を励ましてくれる。ゴール手前、十
 守路の交差点に来た。いきなり大会々長が
 礎があと来て、私の手を引き、横断道路を
 誘導して下さる。ゴール後、その御礼をい
 ると、そのまま来れば、皆が意志と足が別の二
 と、さもありなん。後を役員の方に私を任せ
 「こんな筈ではなかった。十七時間位で勝負
 をつけた。そう思っていた。遅くてすみま
 せん。私は最終ランナーですか、御迷惑をお
 かけします。」いやまだ一人後におります。三
 〇。米位後です。それからは私はタイムを気
 にするが、それには構わず、気分転換のため
 世間話などをして、私を「大丈夫ですよ」と
 励ましてくれる。私は頭が下がる。ゴールが
 えて来た。直線コース五十米だ。役員の方
 は「ここからは自分のスタイルで行って下さい
 と私に声をかけ、自分は今より離れる。「有難
 とう、私が走れる」といって真っしぐらにゴール
 する。役員の方や先に到着していた人達から
 大きな拍手を受ける。

闘いは終わった。惨憺たるものである。ラストか
 ら一番目二十三時間、三十分三十六秒である。
 呆然とする。残念だ。悔やしい。なみだがほ
 おを伝う。完走ハルチなんかには出席し
 ない。天ぷらうどんが食べたい。

体力の限界かも。ごも参加してよかったと
 思おう。体力の限界を乗り越え一言キロの
 距離に挑戦出来たことを。熊野黒潮
 マン思いは美しく前進は勇ましく

あかと思う。



お知らせ

- 一、例会日 十月二十三日 午前九時
新泉神社前広場
- 二、コース 皆と相談して決める
- 三、備考イ、当日は高野山丸トラマソン
開催のため、参加者は例会
日欠席となります。
御了承下さい。
- ロ、十月一日吉野川ハーフマソン
十月八日いだがわアルマソン
参加者の皆様の御健斗
を祈ります。
- ハ、次期例会日 十一月八日、三時

